



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



2021年2月22日 朝刊

記事を読んで、問いに答えなさい。

①トヨタ自動車が2月23日から裾野市内に整備をはじめ、先進技術の実証都市は、何とされているか。記事中からカタカナで抜き出さなさい。

()

②実証都市が実現を目指している未来のライフスタイルとは、どのようなことが考えられるか。記事を参考にしながら、説明しなさい。

[Blank area for answer to question 2]

③裾野市は実証都市の効果を市域全体に波及させるため、独自の次世代型未来都市構想を打ち出している。この構想を何というか。記事から抜き出さなさい。

()

④あなたが住んでいる地域で、未来のライフスタイルをイメージしながら実証都市の構想をタブレット端末などを活用しながらまとめ、発表しよう。ただし、あなたが住んでいる地域の問題点分かる新聞記事のスクラップを必ず使って説明し、問題の解決策も具体的に例示しなさい。

[Blank area for answer to question 4]

トヨタ自動車が裾野市内に建設する「ウーブン・シティ」のイメージ



トヨタの未来都市

「ウーブン・シティ」

裾野ですす着工

トヨタ自動車が23日、裾野市内に整備する先進技術の実証都市「ウーブン・シティ」を着工する。構想の発表から約1年。同市も、実証都市と連動したまちづくりに向けた取り組みを進める。実際に人が住みながら、自動運転や人工知能(AI)などを活用した新たな暮らしの実現を目指す未来都市づくりが動き出す。

自動運転、AIが生活支援

同日は建設予定地で、都市では、自動運転の解決につながるインフラ整備などの神事(電気自動車(EV)が行う地鎮祭が開かれ、人や物を乗せて街の中を走る。建設予定地は、昨を走り、住居内では15年12月末に閉鎖したトヨタ自動車日本東富健康を支援するなど、士工場の跡地(同市御未来のライフスタイル宿)を中心とした70・8万平方メートル。トヨタは「実証実験の場」を掲げ、近接する同社東富研究所の活用も考えられる。ウーブン・シティ構想は、同社が最初に、高齢者や子育て世代に360人程度が暮らす区画で明らかにした。実証を準備し、社会課題の解決につなげる。同社は他業種と連携しながら実証都市での取り組みを進める方針を掲げる。これまでに約3千の個人・法人からパートナーへの応募があったという。地元・裾野市は実証都市の効果を市域全体に波及させるため、独自の次世代型未来都市構想「SDC構想」を打ち出し、デジタル技術を活用したまちづくりを図る。今月4日には、豊田社長が同市の高村謙一市長や隣接する御殿場市の若林洋平市長を訪ね、実証都市を23日に着工すると報告していた。(東部総局・八木敬介)

年 組 名前

作問者: NIEアドバイザー 伊藤大介(静岡聖光学院中学・高校 教諭)

(中学3年、高校/社会、総合)

